



川西市自殺対策計画（案）

修正対比表

	項目	パブリックコメント時 —————：今回削除となった部分	パブコメ・市議会意見を受けた修正案 —————：今回追加となった部分	修正理由
1	1 ページ 第 1 章 計画の策定にあたって 1．計画の背景と趣旨 2 段落目	自殺の背景には精神保健上の問題だけでなく、過労、生活困窮、育児や介護疲れ、いじめや孤立、引きこもりなどの様々な社会的要因があることが知られており、様々な悩みが原因で追い詰められた結果、自殺以外の選択肢が考えられない状態に陥ってしまうものと考えられています	自殺の背景には精神保健上の問題だけでなく、過労、生活困窮、育児や介護疲れ、いじめや孤立、引きこもり、 <u>性的マイノリティーへの偏見や無理解</u> などの様々な社会的要因があることが知られており、様々な悩みが原因で追い詰められた結果、自殺以外の選択肢が考えられない状態に陥ってしまうものと考えられています	性的マイノリティーについても表記する必要があると考えたため。
2	ページ追加	(記載なし)	<u>参考：「生き心地のよいまち」「生きることの促進要因」「生きることの阻害要因」について</u> <u>「生き心地のよいまち」とは？</u> <u>「生き心地のよいまち」とは、まち全体での支え合いを通じて悩みや不安を解決することで、「生きることの促進要因」が「生きることの阻害要因」を上回ることでできるまちのことです。</u> <u>地域コミュニティの中で適切な関係性を築きながら、不安や悩みがあるときは気軽に相談するなど、信頼できる人達に囲まれた生活ができるとともに、地域だけでは解決できない課題については、必要に応じて行政が適切な支援を行うなど、地域と行政が協力した課題解決ができるまちの実現を本計画では目指しています。</u>	解説を加えることにより、理解しやすくなるため。

	項目	パブリックコメント時 —————：今回削除となった部分	パブコメ・市議会意見を受けた修正案 —————：今回追加となった部分	修正理由
			<p><u>「生きることの促進要因」とは？</u> <u>「生きることの促進要因」とは、ありのままの自分を認め受け入れ、自分を尊重できる自己肯定感、信頼できる人間関係の構築、悩みや不安を感じたときに相談するといった危機対処能力 など、これからも生き続けたいという思いや環境などといった様々な要因のことで。</u></p> <p><u>「生きることの阻害要因」とは？</u> <u>「生きることの阻害要因」とは、加齢による疾病や要介護状態・社会や地域での孤立、失業・多重債務等による生活困窮、学校等でのいじめ、長時間労務等による過労など、自殺につながりうる様々な悩みや不安による要因のことで。</u></p>	
3	4 ページ 4 . 計画の策定方法 (1) 市民アンケートの実施	計画の策定にあたり、自殺対策に関する市民の思いや意見を明らかにし、計画策定の基礎資料とするため、20 歳以上の市民 3,000 人を対象にしたアンケートを実施しました。	計画の策定にあたり、自殺対策に関する市民の思いや意見を明らかにし、計画策定の基礎資料とするため、無作為抽出によって選ばれた 20 歳以上の市民 3,000 人を対象にしたアンケートを実施しました。	アンケートの抽出条件をより詳しくするため。

	項目	パブリックコメント時 —————：今回削除となった部分	パブコメ・市議会意見を受けた修正案 —————：今回追加となった部分	修正理由
4	10ページ 職業の有 無・同独居 別でみる自 殺死亡率	参考：図表 2-8 の数値 表中の単位 (人)	参考：図表 2-8 の数値 表中の単位 (10万人対)	図表の単位を明確にする ため。
5	11ページ 2. 市民ア ンケート結 果の概要 2行目	計画の策定にあたり、自殺対策に関する市民の思い や意見を明らかにし、計画策定の基礎資料とするた め、20歳以上の市民 3,000 人を対象にしたアンケート を実施しました。	計画の策定にあたり、自殺対策に関する市民の思い や意見を明らかにし、計画策定の基礎資料とするた め、無作為抽出によって選ばれた 20 歳以上の市民 3,000 人を対象にしたアンケートを実施しました。	アンケートの抽出条件を より詳しくするため。
6	17ページ 自殺した いと考えた 理由 18ページ 自殺を思 いとどまっ た理由			グラフ中、例示がグラフ と同様の表示になっていな いため。

	項目	パブリックコメント時 —————：今回削除となった部分	パブコメ・市議会意見を受けた修正案 —————：今回追加となった部分	修正理由
7	20ページ 第3章 計画の基本的な考え方 2. 計画の基本目標 9行目 考え方 注釈	<p>本市においても、国の自殺総合対策大綱が示すとおり、平成38年までに自殺死亡率を30%以上減少させることを目標とします。なお、計画の基本目標となる値につきましては、兵庫県の計画に合わせて、自殺率をふまえた自殺者数を設定します。平成22年（2010年）から平成29年（2017年）までの8年間の本市の自殺死亡率の平均は15.8であり、自殺者数の平均は25人です。これを30%減少させた場合の自殺者数の目標値は以下の通りです。</p> <p>平成38年（2026年）を目標年と定めた場合に、その中間年である平成34年（2022年）においては、平成38年の目標値（17人）の半分以上を達成しているものとして設定している。</p> <p>目標値について、平成22年（2010年）から平成29年（2017年）までの8年間の本市の自殺者数の平均（25人）を30%減少させた場合の数値としている</p>	<p>本市においても、<u>最終的には自殺者数0人を目指すことを踏まえつつ</u>、国の自殺総合対策大綱が示すとおり、<u>令和8年（2026年）</u>までに自殺死亡率を30%以上減少させることを目標とします。なお、計画の基本目標につきましては、兵庫県の計画に合わせて、自殺率をふまえた自殺者数を設定します。平成22年（2010年）から平成29年（2017年）までの8年間の本市の自殺死亡率の平均は15.8であり、自殺者数の平均は25人です。これを30%減少させた場合の自殺者数の目標は以下の通りです。</p> <p><u>令和8年（2026年）</u>を目標年と定めた場合に、その中間年である<u>令和4年（2022年）</u>においては、<u>令和8年（2026年）</u>の目標（17人）の半分以上を達成しているものとして設定している。</p> <p>目標について、平成22年（2010年）から平成29年（2017年）までの8年間の本市の自殺者数の平均（25人）を30%減少させた場合の数値としている。</p>	<p>自殺者数は、0人であることが望ましいと考えておりますので、追記・削除しました。</p>

	項目	パブリックコメント時 —————：今回削除となった部分	パブコメ・市議会意見を受けた修正案 —————：今回追加となった部分	修正理由
8	27ページ 自殺予防 への支援 2 相談機 関等との連 携	自殺の原因となり得る様々な問題に対応する相談 機関の電話番号一覧を作成し、相談先を周知し、必 要に応じて関係機関へつなぎます。	自殺の原因となり得る <u>健康問題や障がい、難病など</u> <u>の</u> 様々な問題に対応する相談機関の電話番号一覧を 作成し、相談先を周知し、必要に応じて関係機関へつ なぎます。	「健康問題や障がい、難 病など」を追記しました。
9	28ページ 子どもが 安心して生 活できる環 境づくり 本文	児童・生徒が安心して生活できない要因として、 学校における人間関係、家庭における家族との関係 などの様々な背景が考えられます。子どもが追いつ められる可能性を少しでも減らしていくためには、 学校教職員等、子どもへの支援に携わる方の資質向 上など、子どもが安心して生活できる環境の構築 や、各自の自尊感情を育て、自ら SOS を出せる教育 を進めていく必要があります。 今後は、様々な機会を通じて、いのちの大切さを 伝え、SOS を出した時に助けてくれる環境を構築し ていきます。また、子どもにとって SOS を出しやす い環境をつくるために、教職員の研修や情報提供を 進めるとともに、相談やアドバイスなど、児童・生 徒・に対するアプローチも行っていきます。	児童・生徒が安心して生活できない要因として、学 校における人間関係、家庭における家族との関係、 <u>虐</u> <u>待</u> などの様々な背景が考えられます。子どもが追いつ められる可能性を少しでも減らしていくためには、学 校教職員等、子どもや <u>保護者</u> への支援に携わる方の資 質向上など、子どもが安心して生活できる環境の構築 や、各自の自尊感情を育て、自ら SOS を出せる教育を 進めていく必要があります。 今後は、様々な機会を通じて、いのちの大切さを伝 え、SOS を出した時に助けてくれる環境を構築してい きます。また、子どもにとって SOS を出しやすい環境 をつくるために、教職員の研修や情報提供を進めると ともに、相談やアドバイスなど、児童・生徒・保護者 に対するアプローチも行っていきます。	保護者への啓発も必要で あると考えられるため、追 記しました。

	項目	パブリックコメント時 —————：今回削除となった部分	パブコメ・市議会意見を受けた修正案 —————：今回追加となった部分	修正理由
	1 子ども がSOSを 出しやすい 環境の構築	(記載なし)	<p><u>乳幼児期からの自尊感情の醸成や保護者への啓発 など発達段階に応じた支援を行います。</u></p> <p><u>担当課 学校教育課</u> <u>教育支援センター</u> <u>幼児教育保育課</u> <u>こども・若者ステーション</u></p>	